

コンクリート積ブロック

カタログ

大分県型 (粗面)
(滑面)

日本工業規格表示認定工場
大分県土木建築部許可工場

光岡生コン株式会社

〒877-0078 大分県日田市大字友田3714番地

■ブロック部 TEL. (0973) 24-6685

■生コン部 TEL. (0973) 24-3904

主たる用途

- 河 川 工 事
- 道 路 工 事
- 治 山 工 事
- 砂 防 工 事
- 橋 梁 工 事
- 灌 溉 工 事
- 鉄 道 工 事
- 宅 地 造 成 工 事

特 長

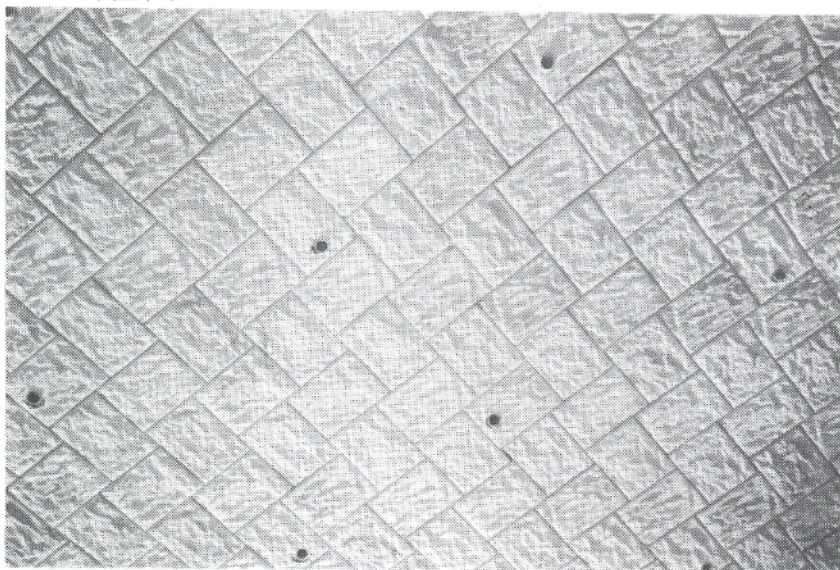
このブロックは、取扱いが容易にして、練積（張）構造にもっとも適した特長を有している。

- 胴込コンクリートが充分連続するから壁体が一体化するので脱け出しを防止する。
- 施工が容易で能率的であるので工期が短縮出来る。
- 谷積・布積の何れにも適し出来上がりが美麗である。

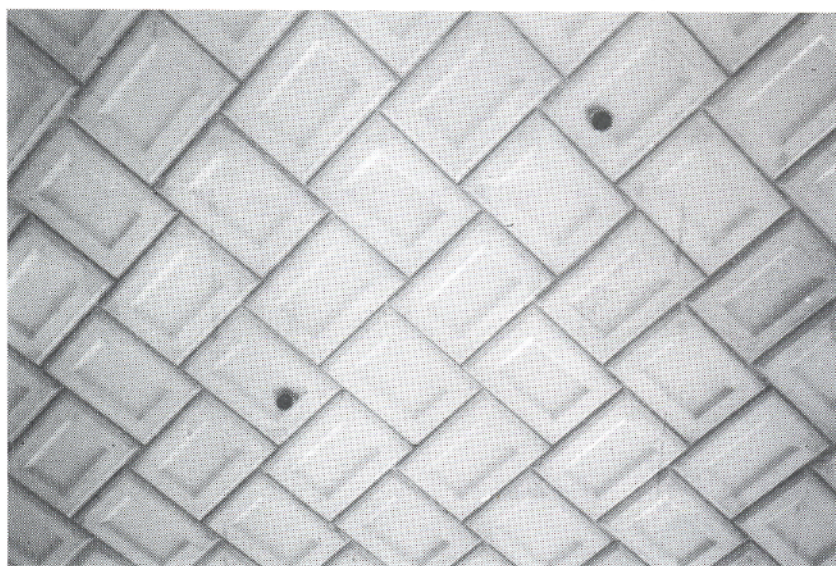
許 可

- J I S 表示許可工場 No. 882117
- 大分県型

(粗面ブロック)



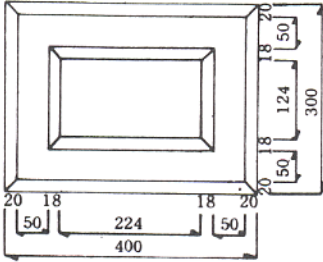
(滑面ブロック)



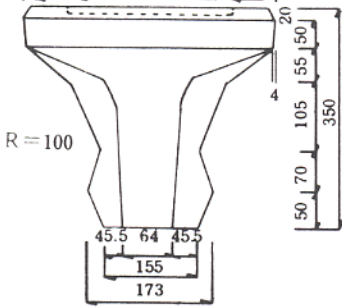
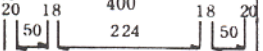
製品規格

1. 基本型 (A型)

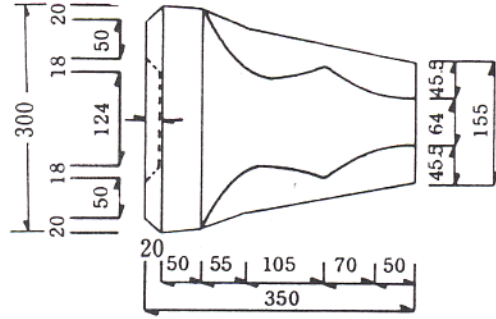
平面図



平面図



側面図

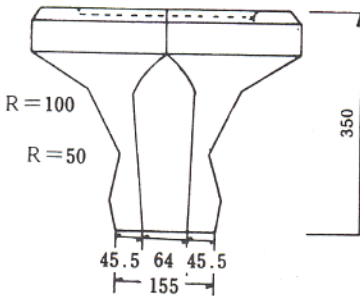
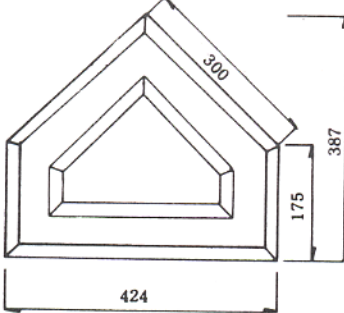


標準体積 0.01848 m³

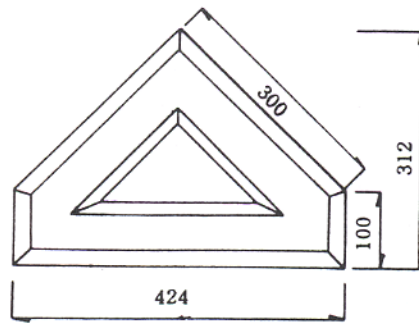
標準重量 42.5 kg

2. 根石天端型 (B型)

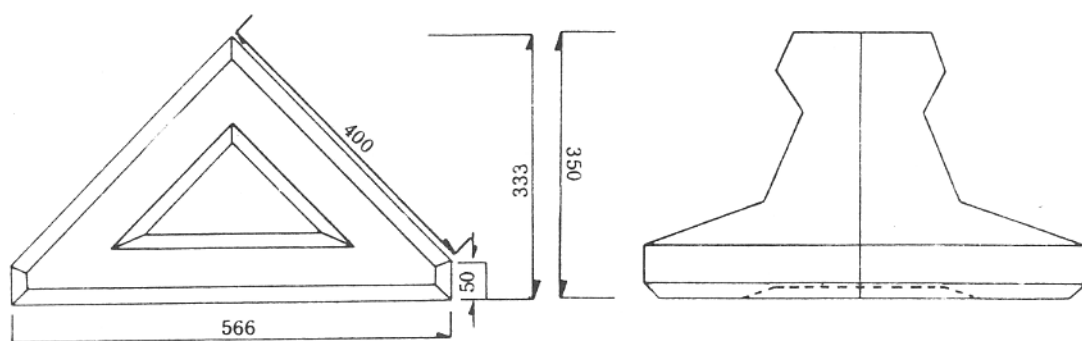
B175



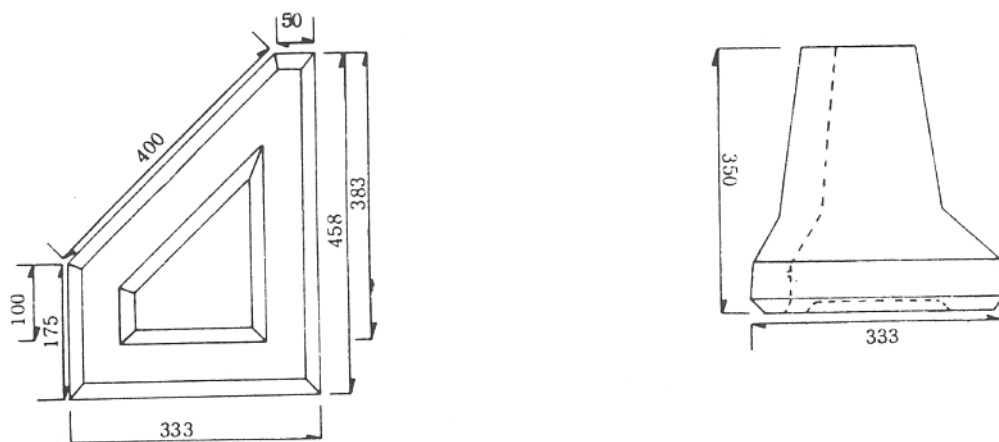
B100



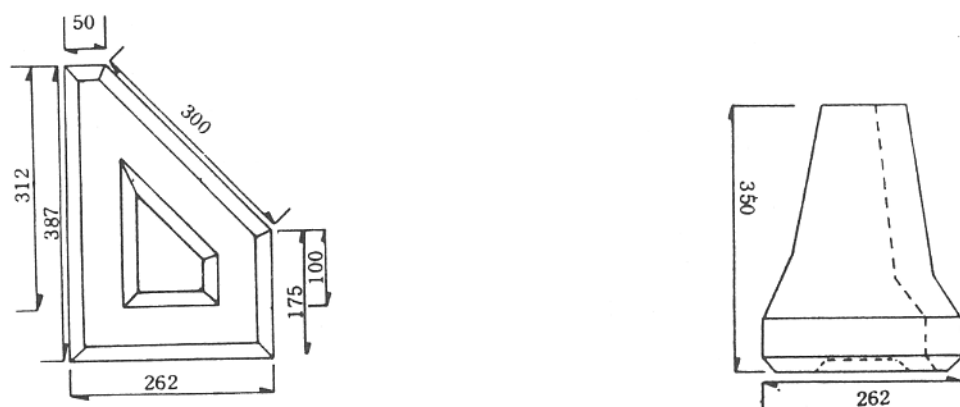
3. 側石型 (C型)



4. 隅石型大 (D型右・左)

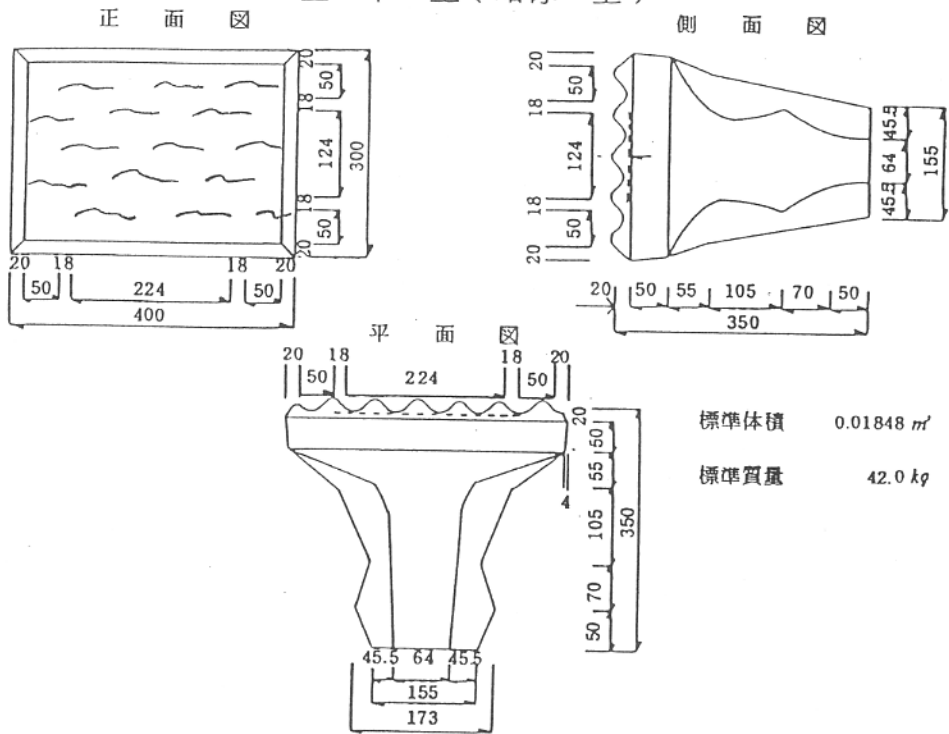


5. 隅石型小 (E型右・左)

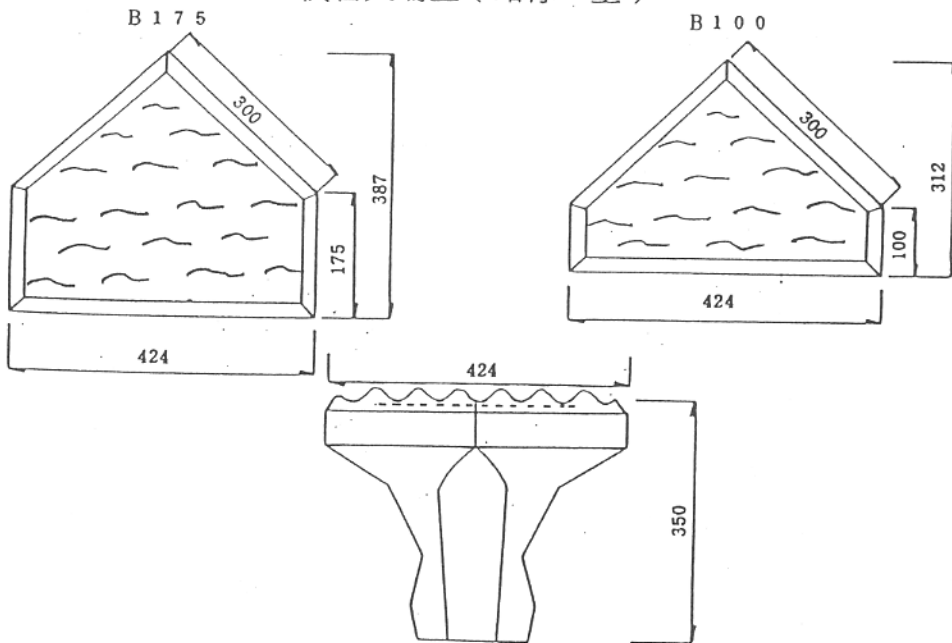


[粗面ブロック・(大分県型)]

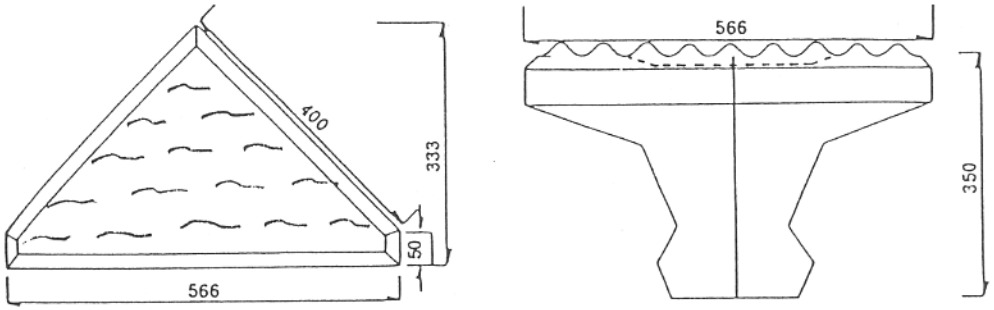
基本型(略称A型)



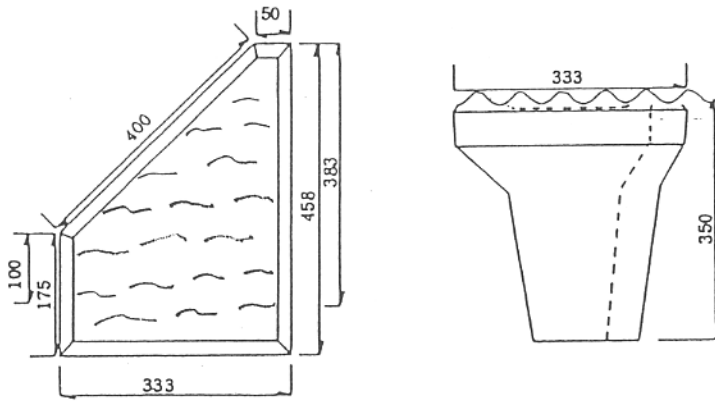
根石天端型(略称B型)



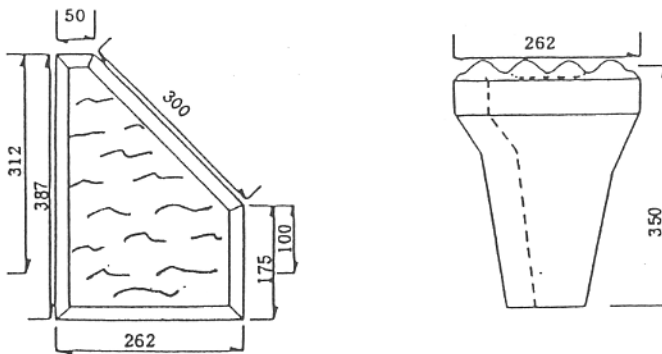
側石型 (略称C型)



隅石型大 (略称D型右·左)



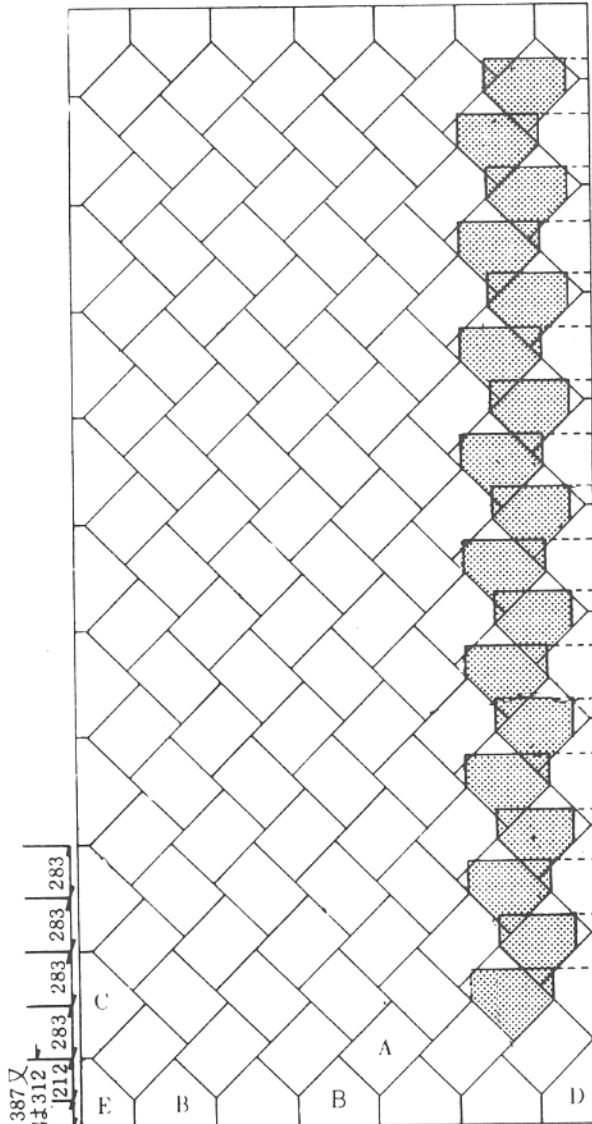
隅石型小 (略称E型右·左)



谷 積 段 割 法 長 表

(単位: $\frac{m}{m}$)

段数	B100+B100	B175+B100	B175+B175
19	5789	5864	5939
18	5506	5581	5656
17	5223	5298	5373
16	4940	5015	5090
15	4657	4732	4807
14	4374	4449	4524
13	4091	4166	4241
12	3808	3883	3958
11	3525	3600	3675
10	3242	3317	3392
9	2959	3034	3109
8	2676	2751	2826
7	2393	2468	2543
6	2110	2185	2260
5	1827	1902	1977
4	1544	1619	1694
3	1261	1336	1411
2	978	1053	1128
1	695	770	845



谷 積 法 長 計 算 式

1. 根石天端B175使用の場合

$$\text{法長 } h = 175 + \sqrt{\frac{300}{2}} + \sqrt{\frac{400}{2}} n + 175$$

2. 根石B175、天端B100使用の場合

$$\text{法長 } h = 175 + \sqrt{\frac{300}{2}} + \sqrt{\frac{400}{2}} n + 100$$

3. 根石天端B100使用の場合

$$\text{法長 } h = 100 + \sqrt{\frac{300}{2}} + \sqrt{\frac{400}{2}} n + 100$$

(注) 積上がり段数はA型のみを言い、
法長は根石・天端型を含んだもの
です。

上表の法長寸法には、目地誤差
は含んでおりません。

積 算 資 料

1. 勾配による半径の補正

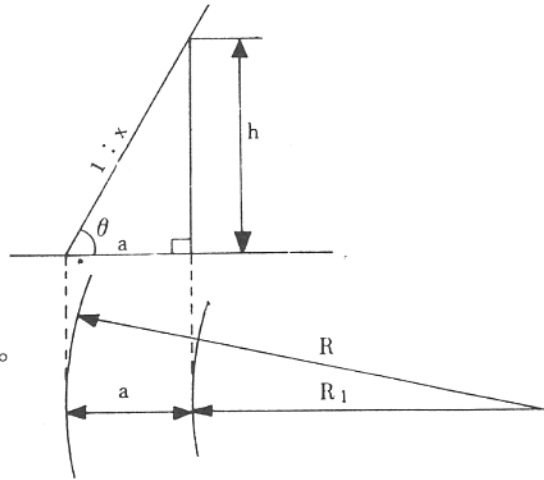
基礎面の半径 = R

基礎面からの高さ h に於ける半径 = R_1

•• $R_1 = R - a$

右図に於いて

$x = 3$ 分勾配
 $\theta = 73^\circ 18'$
 $h = 4$ m
 }
 のとき a を求める。



$$a = \frac{4 \text{ m}}{\tan \theta} = \frac{4}{3.333} = 1.20 \text{ m}$$

下表は各々の直高と勾配による a の数値である。

h	3分勾配	4分勾配	5分勾配	h	3分勾配	4分勾配	5分勾配
0.5	0.15	0.20	0.25	5.5	1.65	2.20	2.75
1.0	0.30	0.40	0.50	6.0	1.80	2.40	3.00
1.5	0.45	0.60	0.75	6.5	1.95	2.60	3.25
2.0	0.60	0.80	1.00	7.0	2.10	2.80	3.50
2.5	0.75	1.00	1.25	7.5	2.25	3.00	3.75
3.0	0.90	1.20	1.50	8.0	2.40	3.20	4.00
3.5	1.05	1.40	1.75	8.5	2.55	3.40	4.25
4.0	1.20	1.60	2.00	9.0	2.70	3.60	4.50
4.5	1.35	1.80	2.25	9.5	2.85	3.80	4.75
5.0	1.50	2.00	2.50				

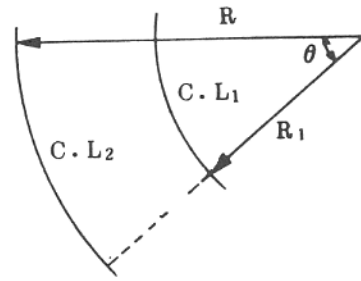
2. 曲線部に於けるブロック積

曲線長 (C. L)

$$C. L_1 = 2 R_1 \pi \times \frac{\theta}{360} \text{ 但し、}\pi = \text{円周率}$$

$$C. L_2 = 2 R \pi \times \frac{\theta}{360}$$

C. L₁ は外曲線の場合は、天端・内曲線の場合は根石 C. L₂ - C. L₁ = x



この x は根石曲線長と天端石曲線長との差であって、此の差をブロックの配置によって詰めなければならない。

(1) 谷 積

$\frac{C. L_2 - C. L_1}{C. L_1}$ に割当てた B 型個数により C. L₂ に於ける目地の間隙を知ることができる。この目地を詰めるためには理論上それに適合するような異形ブロックを製作使用すればよいが、実際施工に際しては不可能に近いので、やはり正規のブロックを用いなければならない。目地の間隙には胴込コンクリートをよく充填し、ブロック相互の一体化を計るよう施行すべきである。

特に、外曲線の場合は擁壁が弱くなる欠点があるので、裏込コンクリートを施工するのがよい。曲線部の積上げは、特に熟練した積工によらなければならない。

(2) 計 算 例

$$\theta = 120^\circ \quad R_1 = 30 \text{ m} \quad R = 31.6 \text{ m} \quad \text{ブロック積直高} = 4 \text{ m} \quad \text{法勾配} = 4 \text{ 分}$$

$$C. L_1 = 60 \times 3.14 \times \frac{120}{360} = 62.80 \text{ m}$$

$$66.15 - 62.80 = 3.35 \text{ m}$$

$$C. L_2 = 63.2 \times 3.14 \times \frac{120}{360} = 66.15 \text{ m}$$

$$62.80 \text{ に対し B 型ブロック (基礎型) を配置すれば } \frac{62.80}{0.424} \doteq 148 \text{ 個、根石の目}$$

地の開きは $\frac{3.35 \text{ m}}{148 \text{ 個}} = 0.022 \text{ m}$ 根石の目地を 0.022 m 練積として、逐次積上げてゆ

く。

